

林業復活、森林を再生

愛媛・内子町 バイオマス発電所開設

竹中工務店や大日本コンサルタントなど5社が参画する内子龍王バイオマスエネルギー（内藤昌典社長）は、愛媛県内子町に「内子龍王バイオマス発電所」を開設した。13日の開所式には内藤社長を始め、竹中工務店の関谷哲也常務執行役員や小野植正久内子町長、内子町森林組合の岡田志朗代表理事組合長らが出席し、完成を祝った。写真。

竹中工務店や大日本コンサルタントなど5社が参画する内子龍王バイオマスエネルギー（内藤昌典社長）は、愛媛県内子町に「内子龍王バイオマス発電所」を開設した。13日の開所式には内藤社長を始め、竹中工務店の関谷哲也常務執行役員や小野植正久内子町長、内子町森林組合の岡田志朗代表理事組合長らが出席し、完成を祝った。写真。

材のペレットを燃料とし、発電させた熱は近隣の公共施設に供給することでエネルギー効率は75%と推定。年間で1808トンのCO₂削減と約2・6億円の地域経済効果を見込む。施設規模は木造平屋建て181平方メートル、所在地は内子1365。総事業費は約4・2億円。

参画企業はほかに内藤鋼業（愛媛県）とサイプレス・スナダヤ（同）、三洋貿易。竹中工務店がPM（プロジェクト・マネジメント）を担い、地元企業として内藤鋼業が木質ペレットの供給などを行う。大日本コンサルタントが基本設計を担当した。

続いて、関谷常務執行役員が「発電所の燃料に間伐未利用材を使用することで、林業の復活と森林の再生につながる。事業を通じて資源の循環を実現し、地域に貢献したい」と話した。

その後、来賓を代表して小野植町長が「発電所が設立され、林業が活性化することは豪雨災害の対策としても有効だ。適正な森林整備を行うことで山に水を蓄える力が戻り、被害の軽減につながる」と期待を寄せた。

同じく来賓代表の岡田組合長は「いままでは採算が取れないため、伐採した木の4割は山に残したままだったが、原料として買い取ってもらえるので運び出せる。放置される木が減ることは豪雨災害時の被害軽減にもつながるので、地元の者としてありがたく思ふ」と述べた。

発電所では原木約3600トン（年間）の間伐未利用材から製造したペレットを燃料に、年間244万9200キロワット



は熱になるので、これを活用

